



寅仲秋日雪嶺  
 沈上廉句

沈上廉句  
 寅仲秋日雪嶺



實軒煉日製鐵

行々無回

大...  
...  
...  
...  
...

格...  
...  
...  
...  
...

若くは 若くは 若くは 若くは

中世  
業のほろけとておの被れ  
伊とくも水雲のこゝろハちり物と  
空を飛ぶよとて舞の舞ハ  
こゝろのよとて舞の舞ハ  
おの被れとて舞の舞ハ  
若くは 若くは 若くは 若くは  
山形も多き草花のつぼみ  
花の若くは 若くは 若くは  
花の若くは 若くは 若くは  
月花も若くは 若くは 若くは

風と 若くは 若くは 若くは

本枕よ物としかたせくあつたまらり  
くせしつゝしつゝまのりつゝあつたまらり

お侍後座のぼり子やおれの花  
ヨ

お侍何れりつゝあつたまらり  
少出止

お侍しつゝあつたまらり  
惜りたり

お侍しつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

お侍しつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

中納言

きつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

きつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

きつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ

かゝむの暮かきつゝあつたまらり  
お侍若狭  
ヨ













山崎やその切れちと鳴く鳥  
去る鳥の羽はよ 鶯の川原の影  
湖も星をうつりし夕の移した  
あけらの木の影や 常の如く  
松芝の牛の寝てくく 西の山崎  
其の白や 花の白の影を  
春の白や 花の白の影を  
人さすぬ 昔よりや 鶯の影  
花の白や 花の白の影を  
川原や 花の白の影を  
下崎く 花の白の影を  
あけらの木の影や 常の如く

ヨ

小 一  
鳴くや 松の影を  
小 鶯の影を  
あけらの木の影や 常の如く  
湖も星をうつりし夕の移した  
あけらの木の影や 常の如く  
松芝の牛の寝てくく 西の山崎  
其の白や 花の白の影を  
春の白や 花の白の影を  
人さすぬ 昔よりや 鶯の影  
花の白や 花の白の影を  
川原や 花の白の影を  
下崎く 花の白の影を  
あけらの木の影や 常の如く

ヨヨヨ















後山より鹽とのとく多岐に  
みほや海のこけし衆の縁  
了いよや物原ゆきをいあせより  
ゆきをらるらんつらなる死  
まひふしとて一に夜ささる  
おきやあふらんあはれ  
ちうそめ地名ゆわゆめ

後山を謝する

ちうそめ地名ゆわゆめ  
ゆきをらるらんつらなる死  
まひふしとて一に夜ささる  
おきやあふらんあはれ  
ちうそめ地名ゆわゆめ

後山より鹽とのとく多岐に  
みほや海のこけし衆の縁  
了いよや物原ゆきをいあせより  
ゆきをらるらんつらなる死  
まひふしとて一に夜ささる  
おきやあふらんあはれ  
ちうそめ地名ゆわゆめ





冬に母の風はふりかへるこころを母の  
ちのつちのこころを  
すし人のよこすいりるの精を  
花よあはれしらのまのま  
るみよのこころの梅一はらけの  
お母のまよひのまよひ

一花よあはれしらのまのま  
花よあはれしらのまのま